

## 令和5年度 第2回福祉サービス運営委員会報告書

- 1 開催日時 令和6年3月14日(火) 14時00分～15時00分
- 2 会場 大分県福祉社会事務局3階会議室
- 3 出席者 (第三者委員) 仲元研二氏 岡村邦彦氏 吉田 隆氏 溝邊博見氏  
(利用者家族委員) 村田暁美氏 後藤小百合氏  
(事業所委員) 安東一夫施設長 関谷眞佐子施設長 安藤 寛施設長 堤 郁夫施設長  
阿南奈緒美施設長  
(法人代表) 有松一郎理事長
- 4 欠席者 (利用者家族委員) 梶 容子氏
- 5 次第 (1)開会 (2)理事長あいさつ (3)委員長あいさつ (4)出席者確認 (5)議事(本部、各施設の報告、協議、総評) (7)閉会
- 6 内容 有松理事長、仲元委員長の挨拶後、委員長の進行で事務局及び各施設の現状と苦情や要望等の状況報告及び協議を行った。

### (1) 本部事務局

#### ① 重点的取組、法人の現状について

新型コロナの感染対策に追われ、サービスの利用制限や地域活動の自粛等で大きく影響を受けた社会生活が、2類から5類移行で節目を迎えました。このような状況下、基本的な感染防止対策の徹底を図りながら、利用児者及び地域の期待の応えるため5年目を迎えた中期事業計画の実現に向け取り組んできたことを報告した。

#### ② 法人の状況

・職員の懲戒処分を行う。(令和5年11月 就業規則違反により懲戒解雇する。)

#### ③ 苦情及びヒヤリハット・事故報告～なし

#### ④ その他～なし

### (2) 別府厚生館

#### ① 重点的取組・施設の現状について

- ・定員16世帯(暫定12世帯)、10世帯38名が入所中である。
- ・安心安全、母子を分離しない支援、家族の再統合や再構築する支援を行っている。
- ・入所は、県内外からのDVによる避難が多数を占め、利用者の安全を最優先した支援を行っている。

#### ② 苦情等について

- ・意見箱への投書 なし
- ・口頭によるもの 2件  
敷地内に張り出した枝の葉が落ちるので枝切りをしてほしい → 謝罪し、はみ出した枝切を行う。  
休日当番医を誤認識し利用者に伝え、利用者が通院して間違いに気づく → 謝罪する。事前に連絡を行い、確認する。

#### ③ その他

- ・入院 1名～クルーズ症候群による気管支炎
- ・コロナ感染～利用者 1名、インフルエンザ感染～利用者 A型4名、B型3名

### (3) うえの園・清明あけぼの学園

#### ① 重点的取組・施設の現状について

- ・障害の重度化に伴う利用者支援の充実、小規模施設の特徴を活かした支援の充実、信頼される質の高いサービスの提供、施設機能強化、働きやすい職場づくりに取り組んできたことを報告した。
- ・うえの園 施設入所支援：20名(定員20名) 生活介護：29名うち通所利用9名(定員20名)
- ・日中一時支援・短期入所定員2名 感染症対策の为一時的に受け入れ中止、緊急時は要相談
- ・相談支援事業所：特定相談支援～計画作成並びにモニタリング数264件  
障害児相談支援～計画作成並びにモニタリング数403件
- ・清明あけぼの学園 施設入所 10名(定員10名)  
日中一時支援、短期入所 定員2名 感染症対策の为一時的に受け入れ中止、緊急時は要相談

#### ② 苦情・要望

- ・意見箱 うえの園1件 新年度の活動等 → サビ管が対応する。
- ・直接 清明あけぼの学園：利用児の母親より担当職員を替えてほしい旨の話あり → 園長・児発管が父

親と面談、支援の方針の説明や母親の思いを聞く → 父親より支援についての理解は得られた。当分の間父親を通じて相談をしていくことにした。

③ ヒヤリハット（うへの園 なし、清明あけぼの学園 7件）

・利用児が自身の前髪をカットしていた / 利用児が施設のキッズ携帯の返却を忘れていた / 幼児の動きを制止しようとして伸ばした手にぶつかった / プラスチックのスプーンを使用中に噛み割った / シートベルトの隙間から抜け出した / 葉を持たせ忘れ届けた / 食事中、口に詰め込みすぎせき込んで吐き出した。

④ 事故報告（うへの園 8件、清明あけぼの学園 3件）

・う/短期入所利用者アレルギー食材を提供未遂 ~ 味噌汁の具に大豆加工品の油揚げが入っていた。本人が気づき、支援者に伝えたので口にすることはなかった。 → アレルギー食材について調理員と一覧表の再確認をした。

・う/帰省時の小遣い準備忘れ → 事務員への情報共有のタイミングを再確認した。

・う/服薬2件、器物破損2件、他害1件、請求書の渡し間違い1件

・清あ/服薬3件 ~ 短期入所利用者が自己管理の薬を過剰摂取していた → 家族と管理の方法を相談  
臨時薬を飲ませ忘れる → LINEWORKSにより情報共有の徹底を確認した。

⑤ その他

・虐待防止委員会（身体拘束適正化委員会）~11月園内研修での意見について（身体拘束について）、2月セルフチェックシート全職員実施後の検討会（身体拘束について）

・感染症対策委員会~新型コロナウイルス・インフルエンザ感染防止について感染拡大状況に応じた対応を2回実施し、取りまとめと周知（事業継続計画（BCP）の整備）

・新型コロナウイルス陽性者：（うへの園）利用者16名、職員7名（清明あけぼの学園）利用児2名、職員1名

・インフルエンザ陽性者：（うへの園）利用者11名、職員6名（清明あけぼの学園）利用児2名

（4） 森の木

① 重点的取組と現状について

・社会的養育推進計画の着実な遂行、施設の地域分散化の推進、働きやすく、安全安心な職場環境の整備、子どものアドボカシーに取り組んだことを報告した。

・本体施設 24名、地域小規模 10名

・被虐待児童入所率（85.3%）発達障害（73.5%）ひとり親家庭（70.6%）

・子育て支援事業（ショートステイ等218日、一時保護66人延1076日）ゆずりは・HOPE相談等4972件

② 苦情等

・聴き耳頭巾意見箱への投書（13件）。

ユニット子ども間のトラブルに対する不満 → 事実関係を確認し、双方の言い分聴き取り、調整する。  
ユニットを変えてほしい、職員が構ってくれない。

③ ヒヤリハット及び事故報告

1) ヒヤリハット

・11/11（土）招待行事で幼女児が、他児童に石を投げつけ顔に当たるもケガには至らず。

・11/23（祝）小6男児が昼食の手伝い中、揚げ物の油が飛び左手親指と人差指の間と手首付近に火傷 → すぐに冷やし、赤く跡が残るが水ぶくれ等なし、病院受診し塗り薬のみ処方される。

2) 事故報告

・1/15 明日葉に入所した小5男児が、入口扉の非常用サムターンカバーを破壊し脱走を図るが、職員が気づき阻止した。翌日、退所となる。

・2/26（月）小1女児に夕食後の薬を誤って2回服薬させる。薬局に対応確認、吐き気等なければ問題ないとのことで起床まで1時間おきに様子確認。翌日、主治医に報告のうえ、不足分の薬を受領する。  
〈交通事故〉

・12/3（日）18時前、中2男児が自転車で帰園途中、飲食店の駐車場から出ようとした乗用車と接触、転倒し右ひざに擦過傷。本児は「大丈夫です。すみません。」と返答しその場から離れ帰園した。翌日、中央警察署に連絡すると、相手方から問い合わせがっており、警官2名が来園し状況等の確認を実施。相手方も修理不要とのことで対応終結となる。

・2/23（金）公民館祭りのため、職員駐車場を開放。来場者（軽トラ）がバックした際に、駐車していた職員の私有車の運転手側前方に衝突。事故処理を行い、先方が修理費負担することとなる。

・2/27（火）16時頃、信号で停車中の車（私有車）前方を高齢者がカートを押しながら横断しようとしてふらつき接触。相手方に怪我なく車には擦り傷。事故処理を行う。

④ その他

・今年度これまでに、新型コロナ感染症に児童16名、職員12名が感染、インフルエンザに児童6名、職員2名が感染したが感染拡大及び重篤化はなし。

## (5) 滝尾保育園

### ① 重点的取組・現状について

・保育環境と保育内容の安定充実、職員研修の充実、働きやすい職場づくり、公益的事業の充実に向け取り組んだことを報告した。

・園児数 223 名（定員 200 名）、一時預かり登録児数 35 名、放課後児童育成クラブ在籍児数 76 名

### ② 苦情・要望等 なし

### ③ 安心・安全の確保(職員の危機管理意識の高揚)

1) 病院受診の有無を問わず、子どもが怪我をした場合、発生状況や対応の経緯、発生要因の分析、今後の対策を様式に記述し、全職員に回覧した。

○病院受診 3 月 1 日(金) 4 歳男児

コマ遊びの際、他児の指先が左目にあたった。痛みを訴え、しばらくの間、目を開けにくそうにしていたため、眼科受診した。

2) 毎月、リスクマネジメント委員会を開催し、職員の安全意識を高めた。

### ④ その他

#### 1) 感染症罹患状況(園児)

月	12月	1月	2月
コロナ	1人	1人	4人
インフル	34人	11人	29人
アデノ	4人	0人	0人

#### 2) マルシェ実施状況(みらいの福祉施設「えんえん」開設に向けて)

「地域における人と人とのつながりを再構築していくための足がかりをつくる」ことを目的に、青空マルシェ 2 回(5 月、12 月)、プチマルシェを 10 月から毎月実施した。

## (6) 明野しいのみ保育園

### ① 重点的取組・現状について

・育内容の充実、保護者や地域との連携の充実、安心・安全に生活するための環境づくり、安心して働き続けることのできる職場環境づくり、公益的事業の充実に取り組んできたことを報告した。

・園児数 155 名（定員 152 名）

### ② 要望及び苦情

(保護者) 今年新たな取組として年長クラス対象に祖父母発表会を開催したところ、本番の発表会を都合により参加できなかった父親が祖父母発表会に参加できないことが納得できないとの申出 → 祖父母発表会は、保育室で開催する為人数に制約があることを伝える。

### ③ ヒヤリハット及び事故報告

(ヒヤリハット)

・毎月リスク委員会で集計、職員に周知。11 月～3 月で 53 件

・噛みつき、転倒、引っ掻き、小石を口に入れる等

### ④ 事故報告 病院受診したもの

・1 歳男児) 午睡から起きて手を拭くときに腕を痛がる。肘内障を疑い病院受診するがその時点では既に整復していた。

・1 歳男児) 園庭で遊んでいて自ら転倒し雲梯の支柱に右目付近を打撲、囁託医受診したところ念のため県病受診をすすめられ、CT 検査、眼科とも異常なし。

・2 歳女児) 隣接公園で転倒した際ベンチで口を打つ。唇と歯茎から出血あり、歯科受診をする。歯の異常はなく様子観察した。

・3 歳男児) マット遊びの際、順番の概念がなく跳び箱に突進して転倒、左腕骨折

・4 歳男児) テラスの鉄棒で遊んでいる際、落下し腕を痛がったため整形外科受診、左腕骨折

・4 歳女児) 保育室で自ら転倒。翌日病院受診し左腕骨折が判明

・4 歳女児) 隣接公園のブランコから落下し右手薬指負傷。病院受診し打ち身の診断

### ⑤ 病気・感染症等の状況

・11 月～2 月インフルエンザ A 型 (22 名) インフルエンザ B 型 12 月～ (8 名)

1 月～新型コロナウイルス感染症 (18 名)

・他、アデノウイルス、突発性発疹、ノロウイルス等感染症等が散見された。

## (7) 協議

### ○委員より

・別府厚生館：意見箱に投書がない月が続いていることが良いかわからないが、良好な関係であると感じている。コロナ対応が変わり人が動き出しているため、以前のように厚生館行事に地域の人を呼んだり、地

域行事に厚生館利用児者が参加するようになってほしい。苦情については、それぞれ感じ方が違うことを理解して対応しなければならない。

・滝尾保育園：入園当初、寂しそうな園児がいたが、その後の穏やかな様子を見てみると、保育者の関りや環境が変えたと感じている。特に食事は、心も体も成長させるもので穏やかな環境で育てられてよかったと感じている。「えんえん」のアンケート用紙に意見をかけるように備考欄を設けてほしかった。滝尾保育園の資料には、苦情・要望やヒヤリハット・事故報告も載せてほしい。

・明野しいのみ保育園：新たな取り組みで祖父母限定の発表会が行われたが、祖父母4人が見たい場合、人数制限は難しい判断になると感じているが、試行錯誤しながらでも続けていってほしい。ケガが多かったようだが、安田式体育遊びや給食でかむ力を強くする取り組み等努力していただいていることが伝わってくるので今後も引き続きお願いしたい。

・滝保保育園にも祖父母デーはあるが、父の日・母の日デーがないので実施してほしい。(コロナ禍で保護者行事を、父母に限定していた、コロナが落ち着いてきたので祖父母にも参観してもらいたいとの思いで設けたものである。今後はコロナ前のように、オープンにしていく流れになると考えている。ファミリーの形態がそれぞれであるので、明野しいのみ保育園では、子どもを傷つけないことを考え、「家族の日」として行事を考えることにしている。)

#### ○岡村委員の総評

・資料に公益的事業の充実について記されているが、大分県福祉会として、本来の事業目的だけでなく地域に貢献する、施設と地域とのつながりを深め、地域に溶け込んでいこうという理念の下で行われていると理解してよいか伺いたい。(そのようにご理解をしていただきたい。国においても公益法人に対して、社会の要請に応えるために地域に対する公益事業に取り組む方向性を示している。我々はそれを超えて、新たな福祉ニーズを拾い上げていきたい。)

・職務に従事する職員間の、コミュニケーション、理念の共有、モチベーションの維持、リスク対応を考えるとき、情報共有をより高度化するための取り組みが重要である。インシデント事例を多くの職員が報告していくべきだと意識を醸成していくことで、リスク対応がきめ細かく質の高いものになる。

・利用者、保護者の関係では、どれだけ多くの情報を開示しているかによって、安心度が全く変わってくる。施設の状況が十分理解できるように取り組むことでより一層質の高いサービスと安心、納得が得られると感じた。

#### ○理事長あいさつ

・貴重なご意見を、これからの運営に参考にしていきたい。理事長就任当初から役職員にお願いしているのは、情報公開である。社会からの負託を受けて存在しているのが社会福祉法人である、疑義をもたれた瞬間から存在を許されない団体である。足元をしっかりと作り上げていくのが、透明性の高い運営である。特に良くないことほど報告を上げてもらうようお願いしている。今回作成した会報は、情報公開の観点で作成したもので、広く社会に発信していくことで透明性を高めていきたいと決意している。頂いたご意見を共有して、より良い大分県福祉会、透明性の高い組織づくりに向かって邁進していきたい。

## 7 閉会

全ての日程を終了し、15時00分閉会した。